



第五十四号

バラード

メルマガnoichi54号、今月のテーマは奥田雅楽之一作曲の『バラード』。
哀愁ある旋律と、古典的な手法を組み合わせた特徴ある箏の独奏曲を、
この度、動画作品として公開することになりました。



今月のメルマガnoticeは、二〇〇六年に私が作曲した《バラード》という曲の動画配信のお知らせとさせていただきます。

《バラード》は、箏の独奏曲であり、作曲年に横浜美術館で行われたイベントのために書かれた曲です。委嘱は現在横浜能楽堂の館長の任にあり、奇才プロデューサーとしてご活躍の中村雅之さんです。

この曲を作曲した二〇〇六年、私は仕事と研究を兼ねて半年ほどヨーロッパを周遊しました。三ヶ月定住したオーストリアのウィーンで、観賞したグスタフ・クリムトの壁画に魅せられ、その想い溢れるがままに書いた曲が、この《バラード》になりました。作曲当初は曲名がなく、公演上差し支えなかったので無題での初演となりましたが、初演の演奏を聴いてくれた祖父・唯是震一が「この曲は『タンシ』曲だね。『タンシ』って、書ける？バラードの当て字だよ」と言われ、以降、譚詩曲と書き、バラードと読ませていました。最近では、ただ「バラード」と呼ぶことが多くなっています。一般に知られるバラードの概念としては、ポピュラー音楽の一つの曲風が定着しており、主に愛や悲哀を歌った抒情的で静かな楽曲をバラードと呼んでいます。また、クラシックの世界ではショパンの曲名として広く知られており、アカデミー主演男優賞などに選ばれた映画「戦場のピアニスト」のハイライトで主役が演奏するシーンがバラード（第一番）の知名度を向上させました。

この曲は、前述しましたが、グスタフ・クリムトの壁画から着想を得ました。その壁画はウィーンのセセッション館というユニークな建造物の地下室に描かれており、四方の壁がクリムト・ワールドに彩られている素晴らしい空間です。また、この作品は「ベートーヴェンへのオマージュ」としても有名であり、クリムトからベートーヴェンに対する最大限の敬意が込められた作品と

なっています。私もベートーヴェンの大大ファンなので、作曲した後はその事実を知った時は、二重の喜びを感じました。

私は、十代の頃に作曲理論の基礎である和声学、対位法、オーケストレーションを勉強しました。音楽理論というのは厄介なもので、ただ仕組みを納得するだけでは何の役にも立たず、実際に作曲し、活用、応用出来るようにならなければ基礎が築かれません。そのような理由から、私は習作のためのピアノの曲、バイオリンの曲、他数曲を作曲しました。もともとクラシック音楽が好きだったこともあり、洋楽器のために作曲する時間を私はどこか幸せに感じていました。一方で、本来専門である和楽器のために曲を書いたのは、意外に遅く、二十代の半ばになった頃でした。私が和楽器のために作曲しなかった理由は、「したい」とか「したくない」という芸術家特有の気持ちの問題ではなく、遅い年齢で修業の



道に入ったことで、生半可な気持ちじゃ一人前の芸域に到達しないことを痛感したためです。不器用な私にとつて、最初の十年は作曲どころじゃなかったというのが本音です。また、芸において私は、新作より古典作品に惹かれたことも、芸の研鑽を最優先にする私の指針を方向付けたように思います。それが正しい決断であったかどうかは、今後の私の努力次第だと思っています。

「外国に行つてみて、改めて日本の良さがわかった」というのはよくある話ですが、私が外国にいたことが作曲意欲に何かしらの影響を与えたことは、確かにあったかもしれません。意識的に西洋音楽を勉強したこと、無意識的に古典の修業に惹かれていったこと、様々な情熱と葛藤が入り交じつたこの時期に作つたこの曲は、今思えば全く若気の至りではあるのですが、若いからこそ、或は、あの時だつたからこそ生み出せた作品ということ、私はこの作品に意味を感じています。作曲から十年が過ぎた今、そろそろ動画配信してみようと思つたのも、私がこの作品を大切にしてきたことの表れかもしれません。

《バラード》は全体が三つのセクションからなる三部形式。三部形式とは、きらきら星のように、最初のメロディーが回歸することが大きな特徴です。序盤は、前奏の和音が壁面にある神話の怪物テュフオーンを揭示し、続く哀愁ある旋律はテュフオーンの娘たちゴルゴン三姉妹を歌っています。中盤は、豎琴を弾く女性に始まり、複数の女性が歓喜を合唱する様子は箏を上下する技巧的な動きで表しています。終盤は、再びテュフオーンのテーマが登場し、もの悲し気に曲を締めくくります。

この機会に、一人でも多くの方に《バラード》を聴いて頂き、知って頂けることを嬉しく思っています。あまり上手に弾けませんが、まずは、メルマガ読者の皆様に御高覧頂ければ幸いです。

わたくし百音が
ゴツクリと
「バラード」について

あつー！
よろしく頼むぞ！

解説します！

①バラード(AAB)形式といわれる
中世の西洋音楽にもおなじみの韻文に
なっているモノ！
ex.)
旋律 (A: 肉が大女子(ki)
同: A: 今日もスキヤキ(ki)
B: 毎日毎晩食べていけ)

それだにの願望
的は...

②これはどれにも言えるけど物語性や
感情と表現の3つが「バラード」。
それは歌詞のない器楽曲にも
言えることなんです！
ex.) J-Pop作曲
バラードの
~オチ
とか

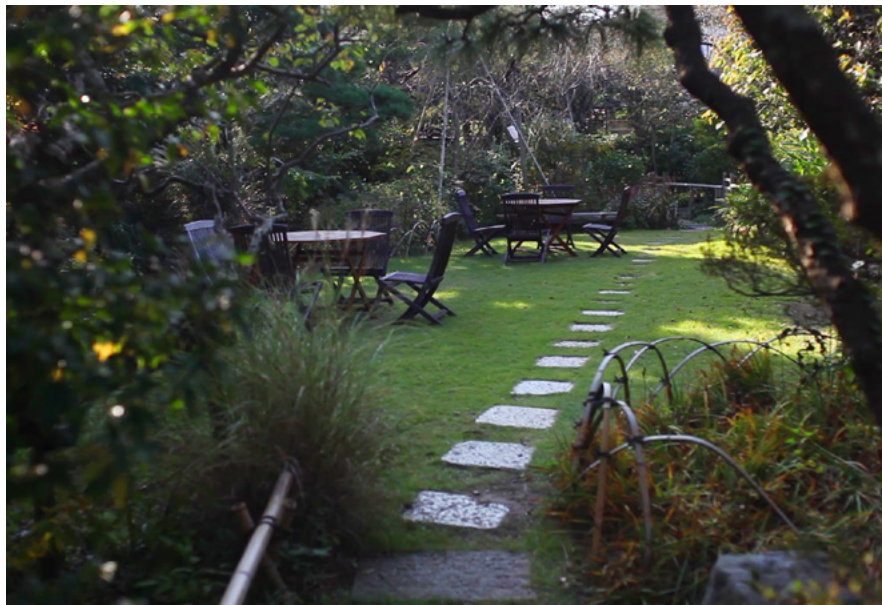
有名は！

③あとはJ-Popや器楽曲の「バラード」！
ポップスやロック等における「感情的な」
スローテンポな曲...ラブソングが多いわね

♪君と出逢ったのは
ある年の土...
照れる君の声
ピッチは443~

ちよ、
さりげなく
なれどめ言の
クッ

Illustration: morimoe



◎あとがき◎

動画を編集して気がついたのは、奥田雅楽之一が右のマンガのキャラクターにますます近づいてきたなということ、演奏中の手の変化。以前に撮つた木花咲耶姫の動画を見ると、まだつるつとして、女性のようなきれいな手だった。それが今回の動画では、男性的な無骨な力強い手になっている。もちろん年齢もあるかもしれないが、演奏家として経験を積み重ねてきた年輪が手にも出てきたのだと思われる。

動画の撮影では大佛茶廊の野尻さんにご協力をいただいた。二十代のころからお世話になっていて、いかゞ恩返しをと思つていたのに、またお世話になってしまった。野尻さんは「鞍馬天狗」や歌舞伎の原作などで有名な大佛次郎のお孫さん。ロケ地となった大佛茶廊は大佛次郎の別邸として使われていた建物。今は野尻さんのお母様（大佛次郎の娘さん）が生活されていて、土日だけカフェとして営業している。鶴岡八幡宮にほど近く、とても気持ちのいい場所なので、鎌倉に行くことがあつたら、ぜひ寄ってみてほしい。

大佛茶廊 (<http://1938.jp/osaragi>)

グラフィックデザイナー (<http://www.1938.jp>) みやはらたかお

